一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会

使用説明の校正ワークフローをADOBE® ACROBAT®で電子化・標準化し、生産性と品質の向上を同時に実現

一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会
http://www.jtca.org/
所在地
〒169-0074
東京都新宿区北新宿4-22-15

概要:

1992年に創立され、2009年に一般財団法人として再出発したテクニカルコミュニケーター協会は、誰もが安全かつ簡単に最新の技術を利用できる「使用説明」に取り組み、仕事や生活の質を高めることができる社会の実現を目指している。そのために、シンポジウムや日本マニュアルコンテストの開催、標準規格の策定、学術研究および産学協同プロジェクトの推進、人材育成などの活動を展開している。

一般財団法人
テクニカルコミュニケーター協会
代表理事
雨宮 拓氏

一般財団法人
テクニカルコミュニケーター協会
公益活動企画会議 議長
黒田 聡氏

豊富な機能を備えている家電製品や携帯電話、インターネットサービスなどを利用するには「使用説明」が欠かせない。かつては分厚くてわかりづらいという声の多かった取扱説明書だが、一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会などの改善活動によって、コンパクトでわかりやすくなってきた。その背景には、取扱説明書の内容改善に不断の努力を続けている関係者の熱意があり、その改善努力はいかに効率的に作業を進めるかというテーマにも向けられている。そのひとつに、校正ワークフローのAdobe Acrobatによる電子化・標準化がある。

取扱説明書から使用説明へ

1992年に創立されたテクニカルコミュニケーター協会（Japan Technical Communicators Association。以下、JTCA）は、一貫して使用説明の品質向上に取り組んでいる。ここでいう使用説明とは、製品やサービスに関する取扱説明書やマニュアルを含め、製品上の表示（組み込み型の操作支援情報）、銘板、企業のWebサイトで提供される製品情報など、ユーザーの製品選択から活用、廃棄に至るまでの多種多様な情報を意味している。使用説明の品質によって、誰もが安全かつ簡単に最新の技術を利用できるか否かが左右され、ひいては仕事や生活の質にも影響する。

テクニカルコミュニケーションにかかわる法人104社、個人200人の会員で構成されるJTCAでは、ボランティア会員が中心になって情報共有と情報交換を行い、使用説明のデザイン、ユーザービリティ設計などの活動を展開している。JTCAの代表理事 雨宮 拓氏は会の活動について次のように話す。

「JTCAは取扱説明書などをつくるメーカーや制作会社、フリーランスの人々が集まってスタートしました。約20年を経て、単に機能や操作法を説明する取扱説明書から、製品やサービスのライフサイクルに合わせて、購入時の使い方、利用例、メンテナンス、廃棄まで、一貫したメッセージを伝えるための使用説明に進化しています」

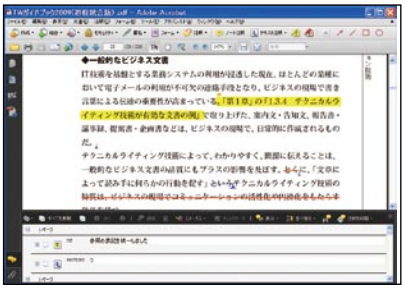
Adobe Acrobatで校正ワークフローの電子化に取り組む

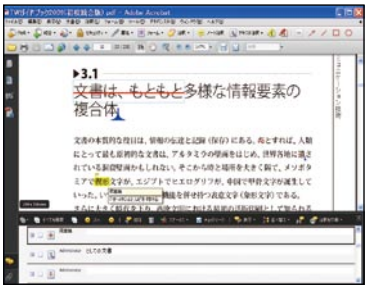
使用説明の制作・チェックにかかわる関係者は、メーカーの企画部門や開発部門、品質部門、製造部門などの担当者から、制作会社の担当者、ライター、編集者など、10～20人に及ぶのが普通だ。しかも、JTCA創立当時の校正ワークフローは紙ベースだったため、印刷会社から校正紙を取り寄せるための時間がかかるだけでなく、誰がどんな修正指示を行ったのか把握することも困難だった。つまり、印刷前の工程（校正）がブラックボックス化しており、そこを可視化しなければ効率の向上は難しい状況にあった。

「当時も国内だけを前提にするのであれば校正ワークフローの電子化ツールはありましたが、販路を海外まで広げているメーカーも多く、グローバルに通用するツールが必要でした。米国発のAdobe AcrobatはPDFにコメントを入れておけば文字化けすることもなく、しかも多言語対応ですから海外でも使えます。Adobe Acrobatなら世界に提案できる、グローバルスタンダードなツールになり得ると考えました。また、取扱説明書をPDFにしておけば印刷在庫を削減できる点も大きなメリットです。当時、この条件を満たすのは、Adobe Acrobat以外にありませんでした」と、校正ワークフロー改善に取り組んできた、公益活動企画会議 議長 黒田 聡氏は話す。

さらに、当時の校正作業は担当者がFAXでやり取りしているため、読み間違いや誤入力も発生しがちだった。また、修正指示の有無を確認するには校正紙を時系列で保管しておかなければならず、十数人がかかわる確認作業では手間暇がかかり負担が大きかったことは、進行上のネックとなっていた。

「Adobe Acrobatを活用した電子校正は最初から念頭にありました。校正過程の履歴の明確化確保に加えて、大量の修正（赤字）情報の保存も容易であり、大勢の人の書き込み情報を透明な紙を重ねるようにマージできます。また、日本の取扱説明書は文字だけではなくビジュアル要素が多く、Adobe Acrobatであれば、いずれビジュアルへの修正指示も可能になるとの読みもありました」（黒田氏）





Adobe Acrobat 9 Proで「Adobe Readerで注釈を有効にする」という機能を使ってPDFを保存し配信すれば、各自は配信されたPDFをAdobe Readerによってチェックし、コメントをPDFに付けることができる

Adobe Acrobatによる電子校正の標準化で生産性と品質を向上

校正工程の効率化で悩んでいた関係者からは、Adobe Acrobatによる電子校正は大歓迎され、急速に普及した結果、今日では業界に広く定着している。JTCAでは、セミナーや検定試験を主催しており、年3〜4回の機関誌、検定試験のガイドブック、それらを案内するダイレクトメールなどを制作しているが、そのすべてがAdobe Acrobatによる電子校正を経ている。

「当協会のあらゆる事業は会員ボランティアによる委員会で運営され、ドキュメント制作などはネットワークを介して作業しています。そのため電子校正は不可欠であり、Adobe Reader でAdobe Acrobatと同様の注釈ツールが使えるようなってからは、Adobe Acrobatによる電子校正が業界に広く定着しました」（雨宮氏）

Adobe Acrobatであれば、電子メールまたはサーバーベースのレビュー（校正）に参加でき、複数のレビュー担当者から返信された注釈（コメント）を1つのPDF文書に簡単に統合できるので、関係者の多い使用説明の電子校正には最適といえる。Adobe Acrobat 9 Proで「Adobe Readerで注釈を有効にする」という機能を使ってPDFを作成し、それを関係者に配信すれば、Adobe Readerで校正できるのでコストもかからず、赤字のとりまとめも容易だ。

「会員ボランティアが分担執筆して確認作業をネット上で行い、事務局がそれらをとりまとめる編集作業を行います。ボランティア集団では指揮命令系統が明確には存在しないので誰が何をいったかがとても大事になりますが、Adobe Acrobatであればすべての修正指示や意見を保存しておくことができるので、問題を未然に防ぐことができます。今やJTCAにとってAdobe Acrobatはなくてはならない存在です」（黒田氏）

今後は動画も含めた校正ワークフローの確立が課題

一方、電子校正が浸透するにつれ、それまで各人各様だったAdobe Acrobatの校正機能の使い方を統一する必要が出てきた。

「たとえば、文章を追加するにしても、コメント機能で追加したり付箋機能を使ったりなど、人によって違いがあり、せっかくのAcrobatの集約機能が活かせませんでした。そこで2008年12月、会員12名による『PDF電子校正とガイドライン検討ワーキンググループ』を立ち上げ、現場での機能の使い方を調査してルール化に取り組みました。その成果は、2010年2月末発行の機関誌上で『PDF電子校正ガイドライン』として公表されました」（雨宮氏）

ワーキンググループに参加した、NECデザイン&プロモーション株式会社、株式会社サン・フレア株式会社、株式会社情報システムエンジニアリング、株式会社パセイジ、富士ゼロックスエンジニアリング株式会社、YAMAGATA INTECH株式会社、リコー三愛サービス株式会社、アドビ システムズ株式会社は、いずれもグローバルビジネスを展開しており、今回の日本発のPDF電子校正ガイドラインは世界に大きな影響を与えることが予想される。

「使用説明のビジュアルなコンテンツでは日本が先行しています。コンテンツを構成するデータも、動画、CADなど広がりを見せています。コンテンツのデータ種別ごとに新しい校正ツールやワークフローを導入するのでは負担が増えてしまいますから、今後もAdobe Acrobatで統合できる校正ワークフローが理想ですね」（黒田氏）

JTCAの堅実な活動の積み重ねにより、今やAdobe Acrobatによる校正ワークフローの電子化は広く普及した標準的な存在となっている。今後は、使用説明に限らず、あらゆる文書を制作する際の標準的校正ツールとして活用されていくことが期待される。

Adobe Acrobat による主な利点

- 世界中で導入実績があり、信頼性も高いので、安心して使用できる
- テキストだけでなく画像の校正もできる
- 複数の注釈（コメント）を1つのPDF文書に簡単に統合できる
- Adobe Acrobat 9 Proを使用すれば、Adobe Readerユーザーも校正に参加できる
- 印刷在庫を必要最小限に抑えることができる
- ドキュメント校正の生産性と品質の向上を実現

使用した製品

- Adobe Acrobat 9 Pro
- Adobe Reader 9

製品に関する詳細は

http://www.adobe.com/jp/products/acrobat/をご覧ください。

お問い合わせ先

製品は、お近くのアドビ認定ディーラー（AAD：Adobe Advanced Dealer）でお買い求めください。AADリストをはじめとする最新情報はアドビ システムズのホームページ（www.adobe.com/jp）で入手してください。アカデミック版および教育機関向け販売プログラムに関する詳細は、アドビ アカデミック コールセンター（tel.03-5350-7133）へお問い合わせください。

「サイズの大きいPDFファイルを校正する場合、Acrobatを使えば、サイズの小さい注釈ファイルだけを保存して相手にメールを送ることができるので助かっています。注釈ファイルはPDFファイルに取り込んでマージすることができます。今後は『PDF電子校正ガイドライン』を多くの人に活用してもらって電子校正を普及させたいと考えています」

一般財団法人
テクニカルコミュニケーター協会
代表理事
雨宮 拓氏

アドビ システムズ 株式会社
〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー
http://www.adobe.com/jp/
Adobe Systems Incorporated
345 Park Avenue, San Jose, CA 95110-2704 USA
www.adobe.com
アドビカスタマーインフォメーションセンター　Tel.03-5350-0407
受付時間／平日9:30 〜 17:30（土曜・日曜・祝日・弊社指定休日を除く）
Adobe、Adobeロゴ、Adobe AcrobatおよびAdobe Readerは、Adobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
その他すべての商標は、それぞれの権利帰属者の所有物です。
© 2010 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved. Printed in Japan.　ASJST838 2/10